

自然の風物詩いっぱい  
井手町へはJR奈良線が  
便利です。



京都から玉水駅までは、みやこ路快速で約28分  
奈良から玉水駅までは、みやこ路快速で約13分  
玉水駅は、みやこ路快速・快速が終日停車します。

お問い合わせ  
京都府綴喜郡井手町井手南玉水67 TEL0774-82-6168/FAX0774-82-5055  
編集・発行/井手町

古来より交通の要所であった井手町は、自然と歴史と文化が香る町です。

奈良時代には橘諸兄が、別業や氏寺を建て、玉井頓宮もおかれしました。以来、いでの里は橘氏のふるさととして、多くの遺跡を今に伝えています。

平安時代になると、玉川の山吹と蛙が有名になり、多くの古典文学に登場します。

「平成の名水百選」に選ばれた玉川は、春になると500本のソメイヨシノが桜のトンネルをつくり、桜のあとは、山吹が堤を黄金色に染め、人々の心にやすらぎと活動の息吹をあたえてくれます。



山吹の玉川 広重画

京都府井手町

京都 — 井手を歩く — 日本文学を訪ねて

「平成の名水百選」  
井手の玉川

山吹が咲き蛙が鳴く詩情豊かな玉川の風景は、何時の世も文人墨客の杖を引く所として多くの歌人が訪れ、古典文学に登場する和歌は350首を数えます。江戸時代になると芭蕉や蕪村も俳句を詠み、山吹から黄金を連想した川柳も詠まれ、浄瑠璃や謡曲にも登場しました。

美の世界においても歌麿や広重、狩野探幽らが錦絵版画や屏風画・襖絵を描き、工芸品では蒔絵文台や彫刻等に山吹の単独作品や六玉川セット作品が残されています。

日本の文化に数々の足跡を残している玉川は、日本一の山吹の名所であったようで、黄金色に咲くユリ科の品種に「タマガワホトトギス（玉川杜鵑）」と命名されている花もあるほど有名でした。又、生け花においても「山吹玉川の景色」として名をとどめるなど、井手の里の風景が多くの人たちの心を魅了し、日本の美の形成に役立ってきました。

玉川は、昭和28年の南山城水害で壊滅的な被害を受けましたが、その時の様子を歌人の吉井勇が「くだつ世は寂しきかなやいにしへの井手の玉川見るべくもなし」と歌に残しています。昭和35年、玉川と源流部の大正池が整備されたのを機に、ソメイヨシノや山吹が植えられ、今では桜と山吹の名所として多くの人たちが集う水辺となり、「平成の名水百選」に選ばれました。





**1 玉川**  
「平成の名水百選」、日本六玉川の一つ石碑がある。



**2 山吹の碑**  
日本一の山吹の名所として、碑に名残をとどめる。



**3 玉ノ井**  
和歌に登場する地名で、玉ノ井寺跡の碑が残る。



**4 蛙塚の碑**  
井手の蛙を詠んだ和歌は83首を数える。石碑や説明文がある。



**5 井手寺跡**  
万葉集編纂の責任者で自らも和歌を残す橘諸兄建立の氏寺跡。石碑や説明文がある。



**6 小町塚**  
小野小町の供養塔。井手寺で没したと伝わる。石碑や説明文がある。



**7 橘諸兄供養塔**  
橘氏の元を築き、山吹を植えたと伝わる。石碑や説明文がある。



**8 町づくりセンター「椿坂」**  
周辺は和歌に登場する「石橋」の地名を残す。奈良大安寺の創建瓦を焼いた石橋瓦窯遺跡がある。



**9 松の下露の碑**  
後醍醐天皇の笠置落ちの碑で「太平記」の情景を伝える。石碑がある。



**10 高神社**  
猿楽奉納の記録としては日本最古級の鎌倉期古文書や数少ない鎌倉期の獅子頭を伝える。

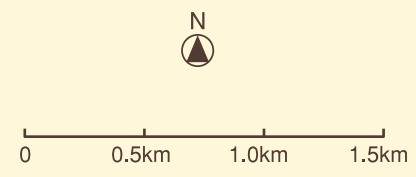


**11 良弁の滝**  
「落差約6m、東大寺要録」に良弁上人が多賀の里で育てられた記事に由来するもの。



**12 贊野の池(推定地)**  
枕草子・更級日記・愚管抄・平家物語など多くの作品に登場する池。井手と多賀の境あたりにあった。

**13 自然休養村管理センター(文化財展示室)**  
町内出土品や参考文献を展示。(休館日:土・日・祝日)





多くの文学に登場する町

井手の自然美は玉川だけでなく、奈良時代の万葉集にも多賀のケヤキや白梅が登場し、橘諸兄の井手別業で詠まれた聖武天皇や橘諸兄の歌があります。中世には後醍醐天皇が笠置落ちのあと有王で詠まれた歌があり、歌碑に「大平記」の情景を伝えています。又、木津川沿いの井手と多賀の境にあった「贄野の池」も「かげろふ日記」・「枕草子」「更級日記」などに登場し、水鳥が遊ぶ池として有名であったようです。

源氏物語 (紫式部) 「胡蝶」の巻

春の池や井手の河瀬にかよふらむ岸の歎冬そこも匂へり...

「真木柱」の巻

思はずに井手の中道へだつともいはでぞ恋ふる山吹の花。

源平盛衰記

宮は平等院を落ちさせ給ひつ、男山八幡大菩薩を伏拝ましまして、新野の池も過ぎさせ給ひて、井手の渡と云ふ所まで延びさせ給ひけり... (略)

山城の井手の渡に時雨して水なし河に浪や立つらん。

枕草子 (清少納言)

池は、かつまたの池。磐余の池。贄野の池。初瀬に詣でしに、水鳥のひまなくゐて立ちさわぎしが、いとをかしよう見えしなり。

無名抄 (鴨長明)

井手の歎冬蛙事  
或人云、「こと縁有りて、井手と云ふ所にまかりて一宿つかうまつりたること付き。所の有様、井手の川の流れたる躰、心も及び侍らず。彼の井手の大臣の跡なれば理なれど、川に立ち並びたる石なども十余町ばかり」...

伊勢物語

むかし、をとこちぎれることあやまれる人に、山城の井手の玉水手にむすびたのみしかひもなき世なりけりといひやれど、いらへもせず。

うつほ物語

〈大将の〉ぬし。長谷より御獄詣とおもほしたちて、いで給ふに、井手のわたりにありける山吹のおもしろきを折りて、かくきこえ給ふ。思ふこと折りつけばもるともにみてとぞつぐる山吹の花。

大和物語

昔内舎人なりける人、おほうわの御幣使に、大和の国にくだりけり。井手といふわたり、きよげなる人の家より、女ども・わらはべいできて、このいく人を見る。



ときかへし  
るでの下帯ゆきめぐり  
あふせ嬉しき  
玉川の水  
藤原俊成  
(玉葉集)



色も香も  
なつかしきかな蛙鳴く  
井手のわたりの  
山吹の花  
小野小町  
(小町集)



春深み  
井手の川浪たちかへり  
見てこそ行かめ  
山吹の花  
源順  
(源順集)



馬並べて  
多賀の山辺を白妙に  
にははしたるは  
梅の花かも  
詠人知らず  
(万葉集第十卷)



とく来ても  
見てましものを山城の  
多賀の槻群  
散りにけるかも  
高市黒人  
(概川ケヤキ)



声たかみ  
かはづなくなり井での川  
岸のやまぶき  
いまは散るらむ  
源実朝  
(金塊和歌集)

### 日本六玉川

井手の玉川が山吹で有名なように、それぞれの玉川も、萩や卯の花、千鳥などの特色を持っていました。

井手の玉川 京都府井手町	野路の玉川 滋賀県草津市	三島の玉川 大阪府高槻市	野田の玉川 宮城県塩釜市	高野の玉川 和歌山県高野山奥の院	調布の玉川 東京都調布市
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	---------------------	-----------------



山吹の  
うつろふ影や五百年に  
すむ名も色に  
井手の玉河  
後水尾天皇  
(後水尾院御集)



行く春も  
井手の川浪たちかへり  
八重山吹の花にとどめむ  
和宮親子親王  
(静寛院宮御詠草)



いかにせん  
たのむ陰とて  
立ちよれば  
なほ袖ぬらす  
松の下露  
藤原藤房  
(大平記)



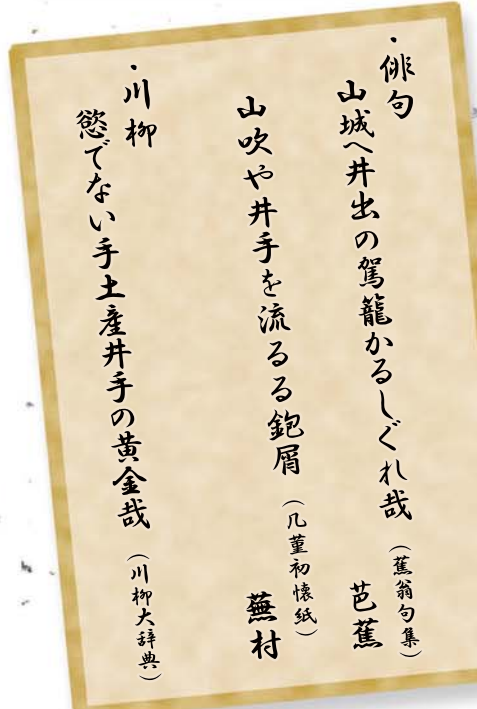
山城の  
るでこそ浪に橋の  
身さへ恋しき  
山吹の花  
正徹  
(正徹千首)



くみてみれば  
恋ざめにこそなかりけり  
音にききこし  
玉の井の水  
中務内侍  
(中務内侍日記)



散り過ぎし  
桜わすれぬ世の人に  
見せばや井手の  
山吹の花  
本居宣長  
(鈴屋集)



俳句  
山城(井出の)駕籠かるしくれ哉  
山吹や井手を流るる鉋屑  
川柳  
悠てない手土産井手の黄金哉  
(芭蕉句集)  
(几重初懐紙)  
(川柳大辞典)